

# ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目	英語
----	----

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

## 〈総論〉

問題全体の構成：大問Ⅰ、Ⅱが長文総合読解問題、Ⅲが会話文問題、Ⅳが自由英作文問題であって、昨年度と同じだった。課題英文の分量はやや減少したが大差ないといってよい（Ⅰは約603語、Ⅱは約709語、Ⅲは約720語）。Ⅳの自由英作文は昨年同様2つの小問からなり、合計で最大90語であった。

内容面：Ⅰは睡眠が記憶の形成に関して果たす役割について。最初の段落で主題が提示され、最終段落でそれまでのまとめがなされるという、共通テスト第4問の課題文のような構成だった。Ⅱは科学論文の量と質の関係について。量が増えたから質が低下したという考えに反論する。Ⅲは英語のプレゼンの準備をしている学生と教官のやりとり。入学後の英語の授業をほうふつとさせる。Ⅳは「親子と一緒に寝ること」についての国別の比較。数値情報（データは2017年のもの）についての自由英作文が久しぶりに出題された。

## 〈特記事項・トピックス〉

〈特記事項・トピックス〉

ⅠとⅡについて、記述と選択式の設問がバランスよく出題された。

Ⅰでは、段落冒頭文の空所補充という恒例の形式が出た。また本文中の表現を英文で言い換える作文問題が出た。

Ⅱは近年のⅠⅡの出題例と比較すると設問の分量が控えめという印象。とはいえ単語レベルがやや高い。

Ⅲの課題英作文では、リモートワークと従来型の会社勤めのどちらを好むかが問われた。

Ⅳは例年通り自由英作文であったが、数値情報が素材となった。小問2つの構成は2023年以降と同じ。どちらの小問でも *opinion* が求められた。

## 〈合格への学習対策〉

見た目の形式に惑わされることのないように、基礎学習を徹底しよう。読解問題について(1)構文を正確に理解して読み進める力を養成すること。単語の意味から大体の意味を理解しようという読み方は禁物。(2)指示語や代名詞が何を受けているか、難解な表現に対してはそれを具体的に説明している部分はどこか、などを常に考えながら読み進む習慣をつけよう。(3)「長文全体の主題は何か」「パラグラフの主題は何か」を常に意識して読み進める訓練をしよう。英作文について(1)基本例文を徹底的に練習して、即座に書くことができる英文をできるだけ増やすこと。(2)文法的に正確な英文を書くよう心がけること。(3)そのようにして身につけた英文を組み合わせるパラグラフを作る訓練をしよう。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
Ⅰ	記述 選択	読解総合「睡眠による記憶の固定化」	1. 下線部説明(記述) 下線部の内容が後ろの <b>where</b> 節であることを把握し、この部分を <b>We</b> から始まる文に書き換える。 <b>come to us</b> 「私たちに思いつく」から <b>come up with</b> や <b>hit upon</b> などを思いつくことができたかがポイント。 <b>sleep on</b> ~は「~を一晩寝て考える」という意味。 2. 語句整序(語句指定) <b>flags</b> が動詞で、 <b>flag A as B</b> が「AにBという印をつける/AがBだと示す」などの意味であることが推測できたかが最大のポイント。 <b>be worthy of</b> ~「~に値する」という表現を知っていることも重要。 3. 英文和訳(記述) <b>not just A but B</b> 「AだけでなくBも」は基本表現。 <b>what</b> と <b>how</b> はそれぞれ「...内容」「...方法」と訳してもよいだろう。 4. 空所補充(選択)	標準

## ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

II	記述 選択	科学の研究出版の量の擁護	<p>名大恒例の段落冒頭文の空所補充問題。④については、選択肢の lack of sleep や interfere with という表現から (E) を選びたくなるが、old information と new information が段落の内容と逆なので誤り。</p> <p>5. 空所補充 (選択) (い)の analogous が難語だが、This と our findings が同じ内容であることを理解し、空所には「類似している」という意味の語が入ることが推測できれば、消去法で analogous が選べるはず。</p> <p>6. 内容不一致 (選択) (C)は第4段落第2文の内容より before が誤り。</p> <p>1. 下線部和訳 (記述) so~that・・・構文の把握。文脈を捉えた上で、an accepted truism 「受け入れられている自明の真理」などと訳せること。</p> <p>2. 下線部の内容説明 (記述) 前後の文脈より「再現」できないことへの「懸念」の内容をまとめる。</p> <p>3. 下線部の簡潔な言い換え (記述)</p> <p>4. 空所補充 (選択) 「研究の量(回数)の増大」をプラスに捉える論理的な流れをつかむ。</p> <p>5. 空所補充 (選択) at the cost of ~のような定型表現、および前後の意味のつながりの把握。</p>	標準
III	記述 選択	対話文総合問題「これからの働き方についてのプレゼンテーション」	<p>1. 空所補充 (選択) 選択肢は全て動詞の ing 形になっており、本文の意味内容に最も合う選択肢を選ぶ。</p> <p>2. 下線部不一致問題 (選択) straight out of the gate 「すぐに;直ちに」という意味を知らなくても、文脈から判断して一致しないものを選択することができる。</p> <p>3. 内容不一致 (選択) Mike の2つ目の発言から選択肢(A)が誤りであると判断できる。また、選択肢(D)の financial については本文中に記述がない。</p> <p>4. “rhetorical questions”の例として正しいものを選択 (選択) “rhetorical questions”は、本文の内容から、問いかけの形をとっているが相手の答えを求めておらず、相手に考えさせることを目的とした疑問文であると分かるので、その例として適切なものを選択する。</p> <p>5. 自由英作文 (記述) リモートワークとオフィスに通勤する従来型の勤務形態のどちらのほうが好きであるか、30~40語で意見を述べる問題。近年よく話題にされている事柄であることからそれほど難しくなかったと思われる。</p>	標準

## ■ 2026年度 入試問題分析シート ■

IV	記述	自由英作文	<p>Co-sleeping（親と子が同じベッドや布団で寝ること）についての統計が素材として与えられている。</p> <p>Q1：統計から Co-sleeping はアジア圏で多く，西洋諸国で少ないということを読み取るのが定石だろう。そのうえで，その理由と考えられることを記述する。理由が思いつかず苦勞した向きも多いのではないか。</p> <p>Q2：Co-sleeping の長所または短所を述べる問題。Q1よりは書きやすいだろうか。</p>	標準
----	----	-------	--	----

「問題レベル」は，本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に，問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので，総括の難易度(昨年比)とは連動しません。